

ねはんえ 「涅槃会」

平成22年 2月 第2週目 放送

今を去る約2500年前にお釈迦様は、インド北部のクシナガラにて、沙羅しゃらの木の下で八十歳のご生涯を閉じ、安らかな最期さいごを迎えたのでした。そのお姿すがたは頭を北に、お顔を西に向けていたとされています。

このお釈迦様の安らかな最期ねはんを「涅槃」と云います。

この日、二月十五日を「涅槃会」と云い、多くのお寺では、お釈迦様の最期さいごの様子をようす描いた「涅槃図」を本堂ねはんずに掛け、法要いとおくを行い、ご遺徳しのを偲びます。

三十五歳さとでお悟りひらを開かれたお釈迦様は、大勢おおぜいの弟子や、多くの悩み苦しむ人々に教えを理解するまで説き安らぎあたを与え、八十歳でとご生涯を閉じられるまでの四十五年間、教えを伝える旅を続けられたのでした。

そして、クシナガラで最期の時を迎えようとしていたのです。

大勢おおぜいの弟子に囲まれたお釈迦様は遺言ゆいごんとなる教えを説かれたのです。

悲しむ弟子達に・・・

「・・・私はいなくなるが、私が説いた教えは残る。私は教えを充分じゅうぶんに説いた、私がいなくなった後はその教えをより所ところとしなさい、また教えを守る自分自身をより所ところとしなさい。・・・もろもろの出来事と形できごと有る物は必ず過ぎ去ってゆく、怠おこたることなく修行に励みなさい。」

と諭し、静かに最期を迎えたのでした。

この世の中は無常むじょうであり、だからこそお釈迦様が説かれた教え、つまり「仏教」を実践する事が大切であり、教えを守る自分自身が大切なのです。

私たちは幸いにも、お釈迦様の教えに出会うことが出来ました、その教えを日常生活いに活かして行くことが教えを守ることになるのです。

そして、自分自身のいのちを大切にすることがお釈迦様の教えを^{じっせん}実践することに他ならないのです。

^{ねはんえ}「涅槃会」つまり、お釈迦様が安らかな最期を迎えられた日は、^{いとく}ご遺徳を^{しの}偲ぶとともに自分自身を見つめ直し、^{じぶんじしん}再びお釈迦様の教えを振り返ってみる良い機会になるのではないのでしょうか？